

令和7年度原子力防災訓練 アンケート結果 (社会福祉施設関係)

宮城県保健福祉部

【入所施設：避難元 1 / 5】

アンケート回答数

	高齢者施設	障害者施設
UPZ内施設数	77	72
アンケート回答数	77 (100%)	69 (95.8%)

1 訓練の参加状況について

- 今回参加した訓練を選択してください（複数選択）

	高齢者施設	障害者施設	合計
①施設間の情報連絡訓練 (必須)	75 (97.4%)	67 (93.1%)	142 (95.3%)
②要配慮者避難訓練 (任意)	2 (2.6%)	13 (18.1%)	15 (10.1%)
③行政との情報連絡訓練 (任意)	16 (20.8%)	2 (2.8%)	18 (12.1%)
④不参加	1 (1.3%)	2 (2.8%)	3 (2.0%)
※不参加の理由	◆避難先施設が確保できていないため。		

【入所施設：避難元 2 / 5】

●原子力防災訓練の回数（年間）

	高齢者施設	障害者施設	合計
年0回	1 (1.3%)	1 (1.4%)	2 (1.4%)
年1回	61 (79.2%)	24 (34.8%)	85 (58.2%)
年2回	14 (18.2%)	44 (63.8%)	58 (39.7%)
年3回	0	0	0
年4回以上	1 (1.3%)	0	1 (0.7%)
※年0回の理由	◆避難先施設が確保できていないため。		
※その他、訓練に関する意見等	<p>◆実際に訓練のために入所者を連れ出し、遠方までの避難は困難。施設間の協力体制と、定期的に避難先施設を訪問し、職員も避難ルートの確認は出来ている。</p> <p>◆避難先施設の方と連絡を取り合う貴重な機会となっている。実際の避難を考えると、車両や同行する職員の確保、持参する物品等の検討も必要と考える。</p> <p>◆メールだと見ない方が多い。担当者が変わっていて引継ぎがなく、訓練の存在を知らないということが何件かあったので、もっと原子力訓練の重要性などを周知することが必要なのではないかと思います。</p>		

【入所施設：避難元 3 / 5】

3 施設間における平時からの備えについて

●施設間の交流状況を教えてください（複数選択）

	高齢者施設	障害者施設	合計
①避難先施設の担当窓口を把握している	67 (87.0%)	65 (94.2%)	132 (90.4%)
②避難先施設の担当窓口と定期的な連絡を行っている	55 (71.4%)	49 (71.0%)	104 (71.2%)
③避難先施設までの避難ルートを実際に通行したことがある	30 (39.0%)	47 (68.1%)	77 (52.7%)
④避難先施設を見学したことがある	34 (44.2%)	51 (73.9%)	85 (58.2%)
⑤避難先施設と避難時を想定した手順等について確認したことがある	17 (22.1%)	19 (27.5%)	36 (24.7%)
※施設間交流促進に向けた課題や意見等	<p>◆今年度、初めて避難先の5施設に見学に伺いました。避難ルートの確認や受け入れて頂く部屋等の確認、担当者の方と実際にお会いしての意見交換など有意義なものであった。</p> <p>◆避難先施設の施設長や担当者に変更となった場合に、避難協定を把握されていないことがある。</p> <p>◆避難先が遠方のため、施設間交流は、難しいと考えます。職員交流が促進されれば、有事の際には顔の見える対応が可能となり全ての運営が有効であると考えますが、やはり行政の力を借りなければならない事柄が多くあるとも考えます。</p>		

【入所施設：避難元 4 / 5】

4 自然災害との複合災害への備えについて

- 原子力災害は、地震等の自然災害と同時に発生することも想定されますが、既存の「原子力災害時避難計画」は、他の自然災害に対する防災対策（計画等）と連動するなど、複合災害に対処することができるものとなっていますか。

	高齢者施設	障害者施設	合計
①対処できるものとなっている	16 (20.8%)	6 (8.7%)	22 (15.1%)
②どちらかと言えば、対処できるものになっている	47 (61.0%)	48 (69.6%)	95 (65.1%)
※対処できている理由等	<p>◆津波が起こった場合、協定施設への避難は困難であるため、施設内避難を想定しており、停電時の非常電源の確保や非常食などの備蓄をしている。</p> <p>◆火災・地震・風水害・原子力災害を含めた非常災害時マニュアルを策定している。非常用電源・自家発電機を確保している。仙台市内に複数の避難先を確保している。</p> <p>◆避難経路について複数の経路を把握している。停電に備え発電機を確保している。利用者移送の際は避難先からも協力を得られるように依頼している。利用者の咀嚼・嚥下に配慮した非常用食品を備えている。排せつ用品、寒さ対策用品などを備えている。電話だけでなく、SNSでの連絡手段を備えている。</p> <p>◆大規模災害との複合災害を想定し、複数の避難先を確保している。停電を想定して、非常用電源を確保している。</p> <p>◆施設に非常用電源を確保している。法人内の防災委員会において、事業所所属の職員に拘らず、居住地区のグループホーム及び入所施設に駆け付ける仕組みがある。</p>		

【入所施設：避難元 5 / 5】

4 自然災害との複合災害への備えについて

- 原子力災害は、地震等の自然災害と同時に発生することも想定されますが、既存の「原子力災害時避難計画」は、他の自然災害に対する防災対策（計画等）と連動するなど、複合災害に対処することができるものとなっていますか。

	高齢者施設	障害者施設	合計
③どちらかと言えば、対処できるものになっていない	13 (16.9%)	15 (21.7%)	28 (19.2%)
④対処できるものになっていない	1 (1.3%)	0	1 (0.7%)
※対処できてない理由等	<p>◆原子力災害と地震・風水害等が同時に発生した場合、建物被害や道路寸断により、計画どおりの避難が困難となることが想定されますが、現行の原子力災害時避難計画では、代替避難経路や二次避難先の設定、他施設・自治体との受入調整に関する記載が十分ではありません。</p> <p>◆津波発生時の避難経路が不足していると思う。実際に通れる道路があるかなど。</p> <p>◆原子力災害を含む複合災害では、入居者の避難を早期に完了することが必要であるが、施設にある車両（ワゴン車タイプの福祉車両1台）を輸送手段とすることは現実的ではない。</p> <p>◆通信機器が使えなくなった場合の連絡手段がない。法人で推進している災害時連絡アプリ等がまだ正式に進んでいない。</p>		

【入所施設：避難先 1 / 2】

アンケート回答数

	高齢者施設	障害者施設
アンケート回答数	141	7

1 訓練の参加状況について

	高齢者施設	障害者施設	合計
①参加した	133 (94.3%)	7 (100%)	140 (94.6%)
②不参加	8 (5.7%)	0	8 (5.4%)
※不参加の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆ネット環境の不備。 ◆手順にある避難元（相手施設）からの連絡がなかったため。 ◆当日、施設の避難訓練があったため参加できませんでした。 		
※その他、訓練に関する意見等	<ul style="list-style-type: none"> ◆メールでの訓練ですが、スムーズに行えていると思います。 ◆原子力災害時の協力協定を再確認する意味でも、定期的な訓練は必要と考えます。 ◆青森県東方沖地震もあったので、改めて訓練の重要性と継続の大切さを実感しました。 ◆定期的な訓練のおかげで、避難元の施設についての周知がなされてきた。又、訓練において原子力防災訓練の意義がより知れるようになった。何かしら具体的な訓練を行えばいいと思う。 ◆訓練の実施について、案内が届かないため、実施連絡の徹底を図っていただきたい。 ◆災害が増えている中、電話・FAXのみの訓練に不安を感じています。当施設では福祉避難所として登録しており、併設している通所介護事業所では指定福祉避難所の指定を受けております。さらに原子力に災害が発生した際に現実的に受け入れが可能なのか疑問に感じています。また、災害時に電話やFAXが使用できるのかについても疑問に感じており、受け入れ施設としては不安に思っています。 ◆施設間の交流の機会となる訓練や研修があると、災害時の対応について共通認識を持てるだけでなく、顔の見える関係を築くことができ有事の際のスムーズな連携に繋がると考えられる。 		

【入所施設：避難先 2 / 2】

2 施設間における平時からの備えについて

※施設間の交流促進に向けた課題や意見等	<ul style="list-style-type: none">◆訓練時のみだけではなく、リモート等で原子力災害の発生をした場合の意見交換会等があると良いかと思えます。◆つい先日、ご挨拶に来ていただき、避難場所も確認してもらったので避難イメージは深めていただけたと思えます。普段からの情報交換などのやり取りは必要だと思います。◆施設間の交流の機会となる訓練や研修があると、災害時の対応について共通認識を持てるだけでなく、顔の見える関係を築くことができ有事の際のスムーズな連携に繋がると考えられる。

3 避難者の受け入れについての課題等

※意見等	<ul style="list-style-type: none">◆施設間での具体的な受け入れのシミュレーションができると良いが、地域での福祉避難所としての機能も併せて構築しなければならないので施設としての準備不足がある現状である。◆実際に避難者を受け入れた場合に、避難者の方々の食事や生活用品は準備可能ですが、服用する薬を当施設で準備するとなった場合にどうなるのか（同じ薬が当施設にもあれば良いですが）を整理しておくが良いと思えます。◆移動が伴っていない訓練なので本番はうまくいかないことが多々あるかと思う。

【通所施設 1 / 3】

アンケート回答数

	高齢者施設	障害者施設
UPZ内施設数	126	108
アンケート回答数	109 (86.5%)	66 (61.1%)

1 訓練の参加状況について

●今回参加した訓練を選択してください（複数選択）

	高齢者施設	障害者施設	合計
①利用者への引渡し手順の確認（必須）	104 (82.5%)	59 (54.6%)	163 (69.7%)
②利用者への引渡し訓練（任意）	25 (19.8%)	16 (14.8%)	41 (17.5%)
③行政との情報連絡訓練（任意）	21 (16.7%)	21 (19.4%)	42 (17.9%)
④不参加	4 (3.2%)	6 (5.6%)	10 (4.3%)
※不参加の理由	◆人員不足。 ◆現在、利用者が自家用車通所の方しか居ないため。		

【通所施設 2 / 3】

●原子力防災訓練の回数（年間）

	高齢者施設	障害者施設	合計
年0回	6 (5.5%)	10 (15.2%)	16 (9.1%)
年1回	86 (78.9%)	49 (74.2%)	135 (77.1%)
年2回	17 (15.6%)	6 (9.1%)	23 (9.8%)
年3回	0	1 (1.5%)	1 (0.6%)
年4回以上	0	0	0
※年0回の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆別な災害を想定したものを実施しているから。 ◆机上での確認以外できていない。 ◆就労先からの仕事依頼が立て込んでおり、実施できませんでした。 		
※その他、訓練に関する意見等	<ul style="list-style-type: none"> ◆今後もこのような訓練を 年1回でも継続していただきたい。 ◆今回初めて行政との情報連絡訓練に参加し、メールのやり取りのみで不安がありましたが、当方の失念に対し石巻市からメールが届いて無いとの確認の電話があり、改めて相互の確認が出来た事の安心を得ました。参加してよかったです。 ◆通所系障害者施設の訓練参加方法がもう少し具体的に提示されているとよい。また、避難にあたっての当事者（利用者・家族）の声を吸い上げる仕組み（意見交換会やアンケート等）があるのか確認したい。これまでに実施された宮城県内の原子力避難訓練において、障害者施設（通所系）が実際参加した事例など（訓練方法や課題など）を共有できる場があると参加しやすい。 		

3 原子力災害避難計画の策定状況について

		高齢者施設	障害者施設	合計
①策定済み		72 (66.1%)	45 (68.2%)	117 (66.9%)
②策定中		29 (26.6%)	18 (27.3%)	47 (26.9%)
③未着手		8 (7.3%)	3 (4.5%)	11 (6.3%)
※未着手の理由	①計画書の文案がわからない	6 (75.0%)	0	6 (54.5%)
	②業務多忙のため、手が回らない	6 (75.0%)	1 (33.3%)	7 (63.6%)
	③その他	0	2 (66.7%)	2 (18.2%)